

成人期女性にとっての健康観

○高橋有子 (心理支援オフィスさくらてーぶる)・岸太一 (東邦大学)

キーワード：健康観, 成人期女性, PAC 分析

目的

成人期は、生物学的にも、心理的にも、社会的にも大きな変化を体験する時期とされている (岡本, 2002 など)。特に子育てを経験する成人期女性については、世代性の課題を抱えながら自らの健康管理を行う必要があり、個人の健康を規定する要因が多様で複雑であると想定される。本研究では成人女性のヘルスプロモーションを行う際に考慮すべき健康への価値・態度などを明らかにするために、事例を通じて健康観を検討することを目的とした。なお本発表に関連し、開示すべき利益相反はない。

方法

対象者：対象者 A：40 代女性。週 4 日健康食品関連の会社にパートで勤務している。小学 4 年生 (女) と 3 年生 (男) の子ども 2 人と夫の 4 人家族だが、夫は出張などで家を空けることが多く、普段は 3 人暮らし。対象者 B：40 代女性。専業主婦。高校 3 年生 (男), 小学 5 年生 (男), 小学 4 年生 (女), 幼稚園 (6 歳) の子どもと夫の 6 人家族。テニスが趣味で試合にも出場している。スポーツによる故障経験がある。

連想刺激：本研究で用いた連想刺激は以下の通りであった。「あなたの健康観についておうかがいします。あなたにとって、健康とは、どのような状態をあらわすのでしょうか。あるいは、あなたが健康である事を意識するのは、いつ、どのような場面でしょうか。また、あなたが健康であるとき、こういった気持ちになっていますか。体の状態は、どのような感じでしょうか。頭に浮かんできた言葉やイメージを、思い浮かんだ順に記入してください。」

手続き：対象者に調査目的、調査内容およびデータの使用方法などを説明し、調査は任意と伝え協力を依頼した。参加の同意を得た後、内藤 (2002) に示された手順に従い、PAC 分析を行った。なお、項目評定等には PAC Helper (Ver. 1.1), クラスタ分析には R (Ver. 3.2.0) を用いた。

結果

対象者 A について

クラスタ分析の結果から、「母も主人の両親も日常生活をそれぞれに心配なく過ごす」の 1 項目 (第一クラスター), 「主人がどこも悪くない」の 1 項目 (第二クラスター), 「夫婦二人で子どもが成人するまで元気である」「体が不自由なく家事ができる」「体が不自由なく仕事ができる」の 3 項目 (第三クラスター), 「子どもが良い状態で成長する」「子どもたちのところが素直である」「仕事をして収入を得る」「母・妻の責任を実行できる」「目的に向かえる」の 5 項目 (第四クラスター) の 4 つのまとまりが示された (Fig. 1)。

第一クラスターについては親が「現状維持で」「達者で」いることを望むと語った。第二クラスターについては夫について「日常生活が主人だけ単独」だと述べた。第三クラスターについては「おおまかな目標」であり、第四クラスターにつ

いては「ちょっと未来の理想の形」と述べた。

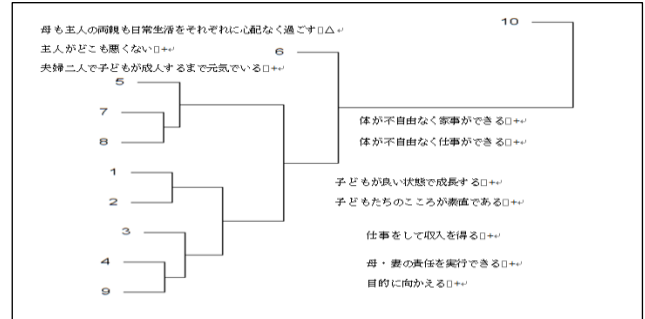


Fig.1 対象者 A のデンドログラム

対象者 B について

クラスタ分析の結果から、「ストレッチ」「意欲的」「すいみん時間」の 3 項目 (第一クラスター), 「ケガをした時に健康が 1 番良いと感じる」「心に余裕がある」の 2 項目 (第二クラスター), 「身体がスムーズに動く」「食事」「体重」の 3 項目 (第三クラスター) の 3 つのまとまりが示された (Fig. 2)。

第一クラスターについては、「良い方向へ持って行こうとするグループ」と述べた。第二クラスターについては、「良いイメージじゃない」「おもうようにできない」と語った。第三クラスターについては、「このテーマは食べすぎ」だと述べた。

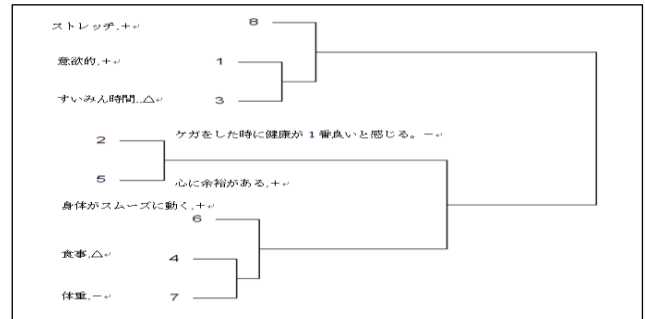


Fig.2 対象者 B のデンドログラム

考察

両事例ともに、身体自由度に注目する項目が共通して見られた。しかし対象者 A は身体自由度を主に家庭生活と関連するイメージとして、また対象者 B は主に日常的に行っているスポーツと関連するイメージとして語っていた。このことから成人女性の健康観を理解するには、生活を構成するどの要素を重要視しているのかについても配慮が必要であることが示唆された。

引用文献

岡本祐子 (編著) 2002 アイデンティティ生涯発達の射程 ミネルヴァ書房
 内藤哲雄 2002 PAC 分析実施法入門 [改訂版] 「個」を科学する新技法への招待 ナカニシヤ出版
 (TAKAHASHI Yuko, KISHI Taichi)